

スズキ、10 年先を見据えた技術戦略 2026 を発表

～開発・生産変革によりエネルギー極少化と本質価値極大化を加速し、 「丁度いい」価値を世界へ～

スズキは、2026 年 9 月 25 日に「10 年先を見据えた技術戦略 2026」を発表しました。

スズキはこれまで、2024 年に地球環境や資源課題の解決に向けた技術哲学として「エネルギー極少化」を掲げ、地域ごとに最適な技術を提供するマルチパスウェイの考え方を示しました。2025 年にはエネルギー極少化に「本質価値極大化」を加え、実現する技術群を「Right × Light Mobile Tech」として位置づけました。

2026 年は、その方向性をさらに強化し、環境変化のスピードに対応するため、開発と生産の変革を進めます。より多くの商品を、より多くの地域へ、より速くお届けすることで、エネルギー極少化と本質価値極大化を加速し、「丁度いい」価値を世界へお届けします。

10 年先を見据えた技術戦略 2026 の主な取り組み

● マルチパスウェイで地域最適を実現

スズキは、地域ごとに異なるエネルギー事情やインフラ環境に対応するため、マルチパスウェイをさらに加速します。原材料価格の高騰やエネルギーコストの上昇、環境・安全規制の強化など、モビリティを取り巻く環境変化に柔軟に対応しながら、お客様にとっての「丁度いい」商品をご提供することで、エネルギー極少化の実現を推進します。

● 開発・生産変革により製品投入を加速

マルチパスウェイを実現するため、開発と生産を同時に変革します。2030 年に向けて新車開発期間を半減させながら、開発効率を 30%向上、生産効率を 50%向上させます。設計と生産の同時進行・部署間での並行開発、デジタル開発の深化、モジュール化の進化を進め、「丁度いい」商品をより速く世界のお客様へお届けします。

● 日本、インドを中核としたグローバル事業基盤を強化

日本で開発した技術を、各地域に向けて最適化した製品開発・量産開発を行います。インドは、世界のお客様へ商品を届ける生産・輸出拠点として強化していき、2030 年度以降インドで年間約 400 万台の生産能力を目指します。

- バイオガス事業で地域資源循環を推進

インドにおいて3基目のバイオガスプラントが2026年8月に稼働開始しました。牛糞由来のバイオガスを燃料として活用するとともに、副生成物を有機肥料として地域へ還元することで、地域資源循環の実現を目指します。既に普及しているCNG車と組み合わせることで、地域に根差したカーボンニュートラルとマルチパスウェイの実現を推進します。

本事業は、2026年7月に日本政府とインド政府が合意した「日印CBG（Cooperative Biogas for Growth）イニシアティブ」の一環として推進しています。

- チームスズキで「丁度いい」商品をお届けする

スズキの強みである「チームスズキ」は、部門や地域の垣根を越えて全体最適を追求する文化であり、「eSKY」の開発では、こうした取り組みにより一充電走行距離を飛躍的に向上しています。それぞれの地域に合わせて最適化することで、お客様にとって本当に必要な価値を持つ「丁度いい」商品を世界へお届けします。

- 「Right × Light Mobile Tech」を具体的な商品へ展開

エネルギー極少化と本質価値極大化を両立する「Right × Light Mobile Tech」を具体的な商品へ展開していきます。シリーズHEV、新型ハイブリッドシステム（開発名称スーパーエネチャージ）、新開発直噴ターボエンジン、安全で軽い「Sライト」、SDVライトなどの技術開発を行い、これらの技術を個別に進化させるだけでなく、地域や用途に応じて組み合わせることで、お客様にとっての「丁度いい」価値を提供してまいります。

以上